

第40回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	柘植ゼミⅡ
チーム名	音楽班
タイトル	音楽と環境問題 ～音楽で変える環境意識～
テーマ群	g)その他
メンバー	◎中島 健介、沖 大介、小田 晋也、田中 彩子、中川 祐輔、 藤本 遥、正木 翔
研究計画内容	<p>私達が音楽と環境問題という一見接点のないと思われる二つをテーマに取り上げた理由は、音楽は人々の環境意識を高めることが期待できると考えたからである。</p> <p>近年、若者が煙草などごみのポイ捨てをしている姿をよく見かける。また階段があるのにエレベーターを使用したり、歩ける距離も車で移動したりする。このような点からも若者は環境問題に対して鈍感だと考えられる。深刻化してきている環境問題に対し、もっと若者が危機感を感じ、環境意識を向上させる事が重要であると考えられる。</p> <p>だが若者は活字を嫌い、新聞やニュースも嫌いである。そのため環境意識を向上させるためのメッセージが届きにくいのが現状である。これに対し、音楽なら若者も日常的に触れており、音楽が好き、アーティストが好きという人も多い。つまり、音楽は若者がよく接する媒体の一つであり、音楽を通して呼びかけることでそのメッセージは若者に届く可能性が高いと考えられる。この様な点から音楽によって若者の環境意識を向上させることが可能かもしれないと考え、このテーマを取り上げた。</p> <p>主な研究内容は、1) アーティストが取り組む環境保全活動の事例紹介、2) アーティストが環境行動に取り組む理由や、それに対する消費者のリアクションに関する経済学的考察、3) 「音楽によって環境意識は変えられるのか」を実証するための実験である。実験内容は、①20人程度の若者を対象としたアンケート調査を実施し環境意識を把握、②その後一週間、環境保全を訴えるメッセージソングを毎日聴いてもらう、③再び同内容のアンケート調査を実施し、一回目の調査時と比べ人々の環境意識が向上したかを検証するというものである。環境保全を訴えるメッセージソングを聴くことにより、ごみ分別やリサイクル商品の購入等の環境に配慮した行動をとるようになっていけば、音楽は人々の環境意識を高めることができると実証することができると考えられる。</p>